



空き家の改修の様子



西川知希の  
最終回

地域を変えていく新しい力

# 日高川町地域おこし協力隊通信

vol.64

平成30年10月から地域おこし協力隊として、移住定住の取組を行ってきた西川。令和3年10月までの任期終了にあたり、これまでの活動を振り返る。

## 移住のキッカケについて

ウルグアイの元大統領であるホセ・ムヒカ氏に関する本や講演する姿を見たことが、地方移住を考えるキッカケになったのかなと思います。「なんのために仕事をしているんだろうか？」そんなことを考えたことはないでしょうか？僕も例外ではありませんでした。「生きていくため」という回答が多いように思うのですが、僕は「贅沢をするため」なのではないかなと思います。贅沢を批判するつもりは全くありません。新しい技術の発展や誕生にはワクワクさせられるし、僕もできることなら贅沢をしたいと思っています。ただ、「贅沢をするために、色々なものを犠牲にしているんじゃないか」とそんなことを思っていました。その考えを後押ししたのが、ホセ・ムヒカ氏

の言葉でした。「生き方・働き方を見つめなおそう。昔ながらの暮らしが残る地方にヒントはあるんじゃないか？」そんな事を考え、「地域おこし協力隊制度を活用した地方移住」をすることを決めました。

「私たちは発展するために生まれてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきているのです。—ホセ・ムヒカ—」

## 地域おこし協力隊としての活動について

多くの協力隊にはミッションというものがありません。僕が、協力隊として取り組んできた主なミッションは、「空き家のマッチング」でした。この3年間で、30件程の空き家契約をサポートさせていただきました。当初は、簡単な仕事だと思っていました。が、空き家には何かしらの

課題があることがほとんどです。契約に向けた課題解決をサポートするにあたっては、様々なドラマがありました。毎回、新しい課題に直面するのは面白くもありましたが、間に挟まれて辛く感じることもしばしばありました。

また、「空き家一棟をDIYして交流拠点を作る」というプロジェクトも進めてきました。老朽化が進んでいることを逆手にとり県内外から人を募ってDIY自体を交流にするというコンセプトで企画しましたが、新型コロナウイルスの流行を受けて人を集めることができなくなりました。もったのは予想外でした。他にも様々な予想外はありますが、めげずに少しずつ完成に向けて作業を進めています。

## 日高川町に移住して来られる方について

僕は、移住してくる人のことをお客さんではなく、友人だと思って接したいと思っています。だからこそ、気軽

に話をしに来てくれればと思うし、「日高川町に移住して来て良かった」と言ってもらいたいと思っています。ただ、移住生活をより幸せなものにするためには、地域の方と仲良くするというのが大切です。そのきっかけ作りはお手伝いしますので、頼っていただければと思います。

## 三年間を振り返って

この三年間、予想以上に大変でしたが、充実した生活は送れたと思っています。また、町内の方々の生活に触れること、行政の中で仕事をさせていただけことは非常に貴重な体験になりました。多少立場は変わりますが、協力隊の任期終了後も引き続き移住定住の担当者として仕事にたずさわらせていただけることになりました。移住定住の業務に加えて、今まで培ってきた縁を生かして新しいことにもチャレンジしていきたいと思っていますので、今後ともお力添えの程よろしく願います！



これまでの活動の様子